

問題

以下は、1980年代のロリコンブームを論じた書籍の一部です。文章を読み、それに続く二つの問いに答えなさい。

1982年の『アニメージュ増刊 アップル・パイ 美少女まんが大全集』などによると、蛭兎神建が1978年12月に発行した文芸同人誌『愛栗鼠^{ありす}』がロリコン同人誌の走りだという。蛭兎神は後のロリコンブームを通じて作家、編集者として知られたが、当時はまだアマチュアだった。1979年4月には蛭兎神らによる文芸誌『ロリータ』、またこれと協力関係にあったロリコンマンガ同人誌『シベール』が創刊する。『シベール』は少年マンガの人気作家だった吾妻ひでお、そのアシスタントで後にマンガ家となる沖由佳雄らセミプロ級の作家が参加。少なくとも1981年の第7号まで刊行されている。

そうした同人誌の発表の場となったのが東京で開かれる大規模な同人誌即売会、コミケットだ。コミケットは過激なロリコンマンガや女性のコスプレなどでもよくメディアの話題になるので、いまさら詳しく説明する必要はないだろう。『ロリータ』『シベール』はコミケットで人気を集め、行列、まとめ買いが行われる同人誌の走りとなったようだ。そこへ1980年代に入ってアニメブームが訪れ、『クラリス MAGAZINE』をはじめとするロリコン同人誌の需要が急拡大していった。

当時のアニメ雑誌でロリコンについてよく語っていたのが米澤嘉博だ。同人誌の世界を熟知していた彼は、『アニメージュ』1982年5月号で「〔ロリコンは〕アニメの美少女キャラを題材にした男の子の遊び」「パロディをやりやすい対象として、アニメやマンガの美少女キャラがある」と語った。つまりアニメ美少女にエロチックなことをさせるのはパロディであり、ただの遊びだったというわけだ。似たようなことを「編集家」の竹熊健太郎も語っている。竹熊は『網状言論F改』（東浩紀編著 2003年）で、アニメ美少女のロリコン表現は「最初は『シャレ』とか『パロディ』の一種だったと断言できます」と述べた。だが「数年を経ずして、本当に『それでオナニーする』ことを表明する人々」が登場し、驚かされたという。

例えば「ドラえもん」「サザエさん」「アンパンマン」といったアニメのキャラクターを劇画タッチで描けば、それだけで滑稽なパロディが成り立つ。さらにセックスを演じさせれば、悪趣味なアングラ風ギャグのでき上がりだ。メジャー／商業コンテンツに対する^{やゆ}揶揄、批評として、マイナーな世界ではそうした悪ふざけがしばしば行われていた。あるいは性的な表現が排除された子供向けコンテンツに対して、背伸びしたい思春期の若者がシニカルなパロディを試みたともいえるだろう。ただし同人誌でそうしたパロディを最初に試みたのは、オタク少年たちではなかった。彼らにマンガ、アニメのキャラクターにセックスを演じさせることを教えたのは、オタク以前からマンガ同人誌を作っていた少女たちだ。

【出典】

高月靖『ロリコン：日本の少女嗜好者たちとその世界』バジリコ、2009年、102-105頁。

- (1) 前掲の文章の内容を、英語で要約しなさい (150words 以内)。
- (2) 前掲の文章の内容について、あなたの考えを日本語で自由に述べなさい (400 字以内)。